
岐阜県立恵那農業高等学校

学校長 伊藤 昭嘉

学校住所 岐阜県恵那市大井町2625番地の17 電話 0573-26-1251

1 会議名 恵那農業高等学校 学校運営協議会 (第2回)

2 開催日時 令和3年11月19日(金)

3 開催場所 書面開催

4 参加者 委員 大宮 康一 岐阜大学地域協学センター准教授
白田 浩通 岐阜県立国際園芸アカデミー教授
岡庭 隆 保護司
小椋日南恵 えな「たべる」プロジェクトアドバイザー
熊崎 健一 恵那市立恵那西中学校長
西尾 浩余 恵那市立大井第二小学校長
加納 夕子 保護者(卒業生)代表
田口 綾乃 保護者(在校生)代表

学校側 伊藤 昭嘉 校長
大矢 英樹 教頭
牧野 久智 事務長
水野 歩 教務主任
安藤 正徳 進路指導部長
河島 隆浩 生徒指導部長
波多野祥子 特別活動部長
野村 祐作 農場長

5 会議の概要(協議事項)

- 1) スクール・ポリシーの策定について
- 2) 県立学校体育施設開放について
- 3) 本校の感染症対策について

1) スクール・ポリシーの策定について

意見1: 生徒の皆さんが、将来の夢に向かって、一人一人が生き生きと高校生活を送ってほしい。

意見2: 異議なし。カリキュラム・ポリシーに従って科目編成、授業をされるなかで、本校との「花と緑の連携授業」などを通じて、協力していきたい。

意見3: アドミッション・ポリシーの1つ目「学びたい」は「学ぶ」の方が伝わりやすいのではないかと。カリキュラム・ポリシーの3つ目「学習活動」は「学習状況」でもよい。

意見4: 学校はどんな生徒を育成しようとしているか、そのための施策を明確に示すことが志望する生徒のビジョンに夢と高校生活への希望を持たせることにつながる。それが本校に入学するモチベーションや意志となる。さらに、多様性がキーワード

ドとなる社会において、生徒個々の特性や可能性を最大限伸ばすといった文言は本校でも大事にしたい。

意見5：スクール・ポリシーのもと、県内では数少ない農業高校の特性を生かし、生徒達や先生方が自信をもって地域に愛される学校を育ててほしい。

2) 県立学校体育施設開放について

意見1：生徒の皆さんの活動や学びに支障がない範囲で、恵那市に所在する高等学校として、地域への貢献だけではなく、地域住民にとって身近な学校に感じてもらうためにも、積極的な開放を期待したい。そのためにも、職員の負担に配慮しながら、市役所または市教育委員会との密な連携に基づく、高校生にとって、地域住民にとって安心安全な運用が大切である。

意見2：学校の教育活動に支障がないか、教職員に負担を求める事にならないかなど、使用する市との事前調整や取り決めが重要である。

意見3：隣県の状況からも、本校でも進めていく方向だと思うが、地域の実情やニーズ、地域性も考慮し、柔軟に運用するとよい。

意見4：開放することには賛成だが、教職員の負担が増えるのではないか心配である。

3) 本校の感染症対策について

意見1：適切な感染症対策が図られている。感染状況は、時によって大きく変化することがある。本校においては、常に正しい情報の把握と冷静な対応を心がけることと、生徒に対しても正しい情報の把握について指導してほしい。また、感染症対応として公共の場（公共交通機関も含む）での行動や振る舞いについても、引き続き指導してほしい。

意見2：恵那市では独自の非常事態宣言が出され、第6波も懸念されている。引き続き感染症対策を徹底してほしい。

意見3：職員においては本業以外の対応が多々あり、大変であるが、引き続き感染症対策を行ってほしい。

6 会議のまとめ

今回協議した議題について、委員より様々な意見が得られた。今後の学校運営の参考としたい。特に新型コロナウイルス感染症に関連した学校の対応について、評価と励ましの意見が得られた。